



令和7年度

三重小だより

【校訓・学校教育目標】 強く 正しく 美しく

長崎市立三重小学校

令和7年11月25日 第20号

文責 校長 飯島 由紀

□ 三重地区4校合同 学校保健委員会を開催しました □

11月21日、三重地区的4校（三重中、畠刈小、鳴見台小、三重小）合同で、学校保健委員会を開催しました。学校保健委員会は、学校・家庭・地域が連携して、子供たちの心身の健康と安全を守り育むことを目的に開催されるもので、今回は、活水女子大学の福井謙一郎先生を講師にお招きし、「愛着形成の重要性～スマホ・メディア使用との関連性～」のテーマで講演を行っていただきました。愛着とは、特定の人との間に形成される愛情のことと、特に養育者と子供の関係を中心とした結びつきを指します。養育者を求める行動が受容されると子供は快い感情を抱き、それが養育者への信頼、他者への信頼につながる一方で、養育者を求める行動が拒絶または攻撃されると子供は恐怖や孤独の感情を抱き、それが養育者への不信、他者への不信につながること、そして、誰も自分を守ってくれないと悟った子供は「自分の身は自分で守る」と考えるしかなく、それが回避行動や攻撃行動につながると福井先生はお話されていました。講演の最後に『ママのスマートフォンになりたい』という、シンガポールのある小学生が書いた作文が紹介されました。現代社会において、スマホやメディアは必要なアイテムの一つではありますが、子供との愛着を形成する中で、何が大切なのかを深く考えさせられた講演でした。

ママのスマートフォンになりたい

ぼくの願いはスマートフォンになることです。

なぜなら、ぼくのママとパパはスマートフォンがとても大好きだから。

ママとパパはスマートフォンばかりを気にして、
ときどきぼくのことを忘れてします。

ぼくのパパが仕事から疲れて帰って来たとき、
パパはぼくではなく、スマートフォンと時間を過ごします。

ママとパパが大事な仕事をしていてスマートフォンが鳴り出したら、
1回鳴っただけでもすぐに電話に出ます。

ぼくが泣いているときでさえ、そんな風にはしてくれないのに。

ママとパパはぼくとではなく、スマートフォンでゲームをして遊びます。

スマートフォンで誰かと話しているとき、
ぼくが何か伝えたいことがあっても、ぼくの話を聞いてくれません。

だから、ぼくの願いはスマートフォンになることです。